

2025

SUPER FORMULA
RACE REPORT

Rd.5

5.17_[sat] - 18_[sun]

[place] オートポリス (大分県日田市)

[weather] _[sat] 雨 / _[sun] 曇り

[spectators] 13,800人 (_[sat] 5,000人 / _[sun] 8,800人)

AUTOPOLIS

Rd.1-2	SUZUKA CIRCUIT	➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤	MAR 07-09
Rd.3-4	MOBILITY RESORT MOTEGI	➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤	APR 18-20
Rd.5	AUTOPOLIS	➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤	MAY 17-18
Rd.6-7	FUJI SPEEDWAY	➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤	JUL 18-20
Rd.8	Sportsland SUGO	➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤	AUG 09-10
Rd.9-10	FUJI SPEEDWAY	➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤	OCT 10-12
Rd.11-12	SUZUKA CIRCUIT	➤➤➤➤➤➤➤➤➤➤	NOV 21-23



天候不良により変則日程で開催。
小高一斗は入賞圏内まであと一步の12位。
平良響も戦略で順位アップし16位を獲得。



2025 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round5 「九州大会 | オートポリス」が5月17日(土)・18日(日)にオートポリスで行われた。予選日が天候不良により、予定されていた走行セッションが全てキャンセルとなり、1日で予選と決勝を行うスケジュールに変更された。KDDI TGMGP TGR-DC は、#28 小高一斗が、一時はポイント圏内の10番手を走行する活躍をみせ、最終的に12位でフィニッシュ。平良響もピット戦略を駆使して順位を上げ、16位でレースを終えた。

KDDI TGMGP
TGR-DC

KAZUTO KOTAKA

28

Driver 小高一斗

Rd.5

予選 15位

決勝 12位

Rd.3

予選 P15 / 1'28.196
※通常のノックアウト形式から、40分間の計時予選へ変更。

決勝 P12 / 1'31.548

KDDI TGMGP
TGR-DC

HIBIKI TAIRA

29

Driver 平良響

Rd.5

予選 20位

決勝 16位

Rd.3

予選 P20 / 1'28.419
※通常のノックアウト形式から、40分間の計時予選へ変更。

決勝 P16 / 1'32.146

Rd.5

予選 天候:曇り/気温:18℃/路面温度:20℃ 決勝 天候:曇り/気温:17℃/路面温度:20℃

QUALIFYING

ここまで1大会2レース開催のスケジュールが組まれていたが、今大会は土曜日に公式予選、日曜日に決勝レースを行うフォーマットが採用された。しかし、17日(土)は朝からサーキットが強い雨と濃い霧に覆われる状況となり、この日の走行セッションは全てキャンセル。予選は18日(日)午前に順延され、ノックアウト方式ではなく、40分間の計時予選となり、記録されたベストタイム順でグリッドが決定された。

予選でのスピードがライバルと比べて劣勢になっている課題を克服するべく、今回はマシンのセッティングを大幅に見直してきたKDDI TGMGP TGR-DC。本来ならフリー走行で変更点の確認をしたかったところだが、それが叶わず、ぶっつけ本番で予選アタックに臨んだ。2台とも上位を目指したが、他車のコースオフにより最終アタックでのタイム更新が叶わず、小高は15位、平良は20位でセッション終了。新しいセッティングに微調整を加えて、決勝レースでの挽回に挑む。



RACE

41周で争われた決勝レース。15番グリッドの小高は、スタートでの中団グループの混乱をうまく利用して3つ順位を上げて周回を重ねていく。ライバルが早めにピットストップを済ませていくなか、小高は17周目にタイヤ交換義務を消化し、後半戦に臨んだ。19周目にコースオフ車両が発生したことでセーフティカーが導入され、各車の間隔がリセット。レース再開後は混戦のなかで順位を上げて一時10番手に浮上した。このままポイント獲得に期待がかったが、レース終盤にライバルの先行を許し、12位でチェッカーフラッグを受けた。

20番グリッドの平良もスタートをうまく決めて、前半スティントから安定したペースを刻んでいく。後半までピットストップをしない作戦で走行していたが、コースオフ車両が発生したタイミングでピットインに成功し、14番手にジャンプアップ。レース再開後にライバルを追い抜いてポイント圏内進出を目指したが、実際には思うようにペースが上がらず、最終的には2つポジションを落として16位でフィニッシュした。



28



ポイントが獲れるか獲れないかというレースができたので、これを次に繋げたい。

ドライバー 小高 一斗

前回のもてぎ大会からチームのみんなと色々話し合っ、今回、方向性を大きく変更し、特にブレーキの安定感やダウンフォースの増加が期待できそうなセットアップを持ち込みました。いざ予選で走ってみるとあまり機能していなくて苦しい結果になりましたが、決勝前のウォームアップで変更した箇所に対する感触は良く、良い流れでレースに臨めました。ピットのタイミングがもう少しうまくいけばポイントに手が届いたような手応えを感じました。

29



ピットのタイミングは完璧でしたが、その後のペースがありませんでした。

ドライバー 平良 響

このクルマでオートポリスを走ることには慣れていない部分があったので、予選の最初は新品タイヤを履かない作戦を取りました。他のドライバーが新品タイヤを3セット使っていたので、そのやり方でも良かったのかと思いましたけど、レースのことを考えれば、悪くない選択だったと思います。レースに関してはピットインのタイミングがこれ以上ないくらい完璧でした。そこから入賞圏内に行きたかったのですが、全くペースがなくて、完敗という展開になりました。



監督
片岡 龍也

鈴鹿大会・もてぎ大会を経て、クルマのセッティングに関して大きく方向性を変更しました。ところが天候不良でフリー走行で試すことができず、ぶっつけ本番で臨むことになり、細かいところをアジャストする間もなく予選が終わりました。苦しい展開になりましたが、決勝レース前のウォームアップである程度手応えが掴めていましたし、2台ともスタートをうまく決めてくれました。ペース的にはトップに及ばないにしても、それ以降の集団と同じくらいで走れていました。あとは予選順位が上がってくれば、次戦以降が楽しみです。















